

揖斐郡揖斐川町

NPO法人いびがわミズみずエコステーション

流域清掃活動推進事業

流域全体が運命共同体



河川環境保全への熱い思いを語る中村賀久理事長＝揖斐郡揖斐川町、岡島橋下流の揖斐川河川敷

「川は水が汚れて、ゴミがいつばい。河川敷で遊ばないように」。今から20年前、長女が通う小学校からの連絡に「清流の国の住人」は耳を疑った。「子どものころ皆、当たり前のように遊んだ揖斐川。地域の最大の魅力であり、誇りである清流を守らなければ」。

揖斐郡揖斐川町のNPO法人いびがわミズみずエコステーション理事長、中村賀久さん(58)が抱いた熱い思いは、町全域から近隣市町、西濃全域へと広がった。約3千人が心を一つに参加する住民活動「揖斐川流域クリーン作戦」。

「昔の自然を取り戻し、清流の町をアピールしたい」。まずは川に近づくことで住民の関心を高めようと「日本のどまんなか(いびがわ)ミズみずフェスタ実行委員会」を発足、ゴミ拾いしながら歩くウォーラリーや利き水大会などのイベントを毎年、開催した。

1993年、揖斐川町商工会青年部員でもあった中村さん。小学校PTAと青年部の同世代の仲間と行った町づくり勉強会の中でも「川と水」は重要なキーワードだと結論。「昔の自然を取り戻し、清流の町をアピールしたい」。まずは川に近づくことで住民の関心を高めようと「日本のどまんなか(いびがわ)ミズみずフェスタ実行委員会」を発足、ゴミ拾いしながら歩くウォーラリーや利き水大会などのイベントを毎年、開催した。

同じだった思い
当時は揖斐川支流の粕川や桂川が会場。参加人数は約2千人まで増えたが、7年を経過した2000年、転機を迎える。「流域は運命共同体。1町だけでなく、活動を揖斐川の上流から下流まで広げていこう」と、「揖斐川流域クリーン大作戦」と名称変更し、環境保全やまちづくりに取り組み各団体に協力を要請。「思いは同じだった。輪はどんどん広がった」と中村さん。年を経ることに合併前の旧揖斐川町から久瀬、坂内、谷汲地域へと会場数が増え、郡内、不破郡垂井町、大垣市上石津町、養老郡養老町も加わり、今年には11会場で同時開催した。

同じだった思い

05年に立ち上げた「いびNPO法人連絡協議会」で、体験講座「いび地域環境塾」を毎月開いている。

意識変革を進める

06年には西濃全域の「西濃環境NPOネットワーク」を立ち上げ、会長も務める中村さん。「活動目的は単なる清掃だけではない。住民の環境に対する意識変革こそが真の目的」と語る。「揖斐川町ではかなり住民意識が変わった自負がある。大勢の仲間とともに流域全体で意識変革を進め、美しい清流の国をつくりたい」。中村さんは20年前と比べ、見違えるほどきれいになった揖斐川を眺めながら思いを新たにしている。



約3000人が揖斐川流域で一斉に取り組むクリーン大作戦＝2012年5月、揖斐川町

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【3】

流域清掃活動推進事業

～生物多様性・水環境の保全～

清流は、流域の暮らしに様々な恵みをもたらし、豊かな海を育てています。一方、暮らしで生じた生活ゴミや流れ出した流木等が河川環境を悪化させ、海の環境や水産業等にも深刻な影響を与えています。こうした課題に対処するため、県下の主要河川流域において、流域の環境保全団体等による協働体と自治体等が連携し、流域全体に着目した河川清掃活動に取り組んでいます。

<平成25年度の対象流域>

- 長良川流域(H24～)
- 揖斐川流域(H24～)
- 土岐川流域(H25～)

平成28年度までに5流域への拡大を目指しています。各流域の活動への参画をお待ちしています。

